



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

初任者研修 課題等研修 V

令和5年10月19日（木）実施

研修 「ティーチャーズ・トレーニングの概要～子どもの好ましい行動を増やすために～」

講師：高知県立療育福祉センター 発達障害者支援センター 野々宮 京子 チーフ

ティーチャーズ・トレーニングとは…

- ・ 保護者を対象としたグループプログラム「ペアレント・トレーニング」の支援者版
- ・ 子どもの「行動」に焦点をあて、その意味を理解し、より効果的で具体的な対応を学ぶ



伝え上手になろう！

「行動」とは…

目に見えて、耳に聞こえて、数えられ、「～する」で表せるもの



抽象的な表現 ⇒ 具体的な表現

- いつまでも寝ない → 11時に寝る
- ちゃんと座る → 足をそろえて座る
- 片付けをしない → 片付けをせずに遊んでいる



好ましい行動を増やすためには、具体的な表現にしよう!!

子どもの「行動」（3種類）に合わせた対応を!!

好ましい行動

ほめる

ほめ方のコツ

タイミングを逃さず、行動をし始めたらすぐにほめる!

- ・ 近づいて
- ・ 同じ目線の高さで
- ・ 目を見て
- ・ 言葉は短く、簡潔に
- ・ おだやかに、ほほえんで
- ・ 皮肉は交えずに

タイミング

視線・からだ

メッセージ

好ましくない行動

注目を外す

注目を外すコツ

好ましくない行動直後に開始!

- ・ 視線を合わせない
- ・ 体の向きを変えて、表面的に興味がないことを示す
- ・ 何も言わない
- ・ 無関心な表情
- ・ 何か他のことをして、感情をコントロールし、平静な態度をキープする

許しがたい行動 危険な行動

制限を設ける

なくしたい行動

- ・ 人を傷つける行動
- ・ 危険な行動
- ・ すぐに止めるべき行動

実際の場面を想定した
ロールプレイもしたよ!



好ましくない行動を止めて、
好ましい行動を始めるのを観察しながら **待つ**

好ましい行動を
促すには…

効果的な指示をする

— やってほしい行動を引き出す —

「すべてできたらほめる」
ではなく、「25%できたらほめる」

「指示」の出し方のコツ

- 1 子どもの注意をひく
- 2 視線を合わせる
- 3 指示は「短く」「具体的に」「してほしい行動」を伝える
- 4 「落ち着いて、口調はきっぱり」と伝える
- 5 「25%ルール」でほめる

やる気を引き出す指示を
出しましょう!



【受講者の感想】

- ・ 子どもたちの困った行動を性格で一括りにして考えるのではなく、行動に注目して働きかけることで問題行動が減り、好ましい行動が増えることが分かった。
- ・ これから実践しようと考えたのは、「生徒の良い行動を実況中継する」ということだ。普段の生活で、できて当たり前だと思っていた行動にも目を向け、ほめる機会を増やしていきたい。
- ・ 今回の研修を経て自分の指導が、いかに好ましくない行動にフォーカスしたものになっていたかを痛感した。日々生徒たちと関わっていく中で、好ましくない行動に注目しがちであるからこそ、「ほめる」ことを意識したい。

研修【講義・演習】「リスクマネジメント」

講師：鳴門教育大学大学院 阪根 健二 特命教授



リスクマネジメントとは…

リスクは、①事前の調査や分析によって影響を予測（予見）することができるものと、②予測（予見）が難しいものとに分類できる。いずれにしても、事前に予測（予見）することで、リスクを回避・低減する一方で、ベネフィット（教育的効果）とのバランスから、リスクテイク（受け入れ）を行うことが、リスクマネジメントといえる。



現代の教育における諸課題への対応
↓
経験知だけでなく、知見を取り入れた判断が大切!



【確認バイアス】

自分にとって都合のよい情報ばかりを集めてしまう。（認知バイアスの一種：自分だけは大丈夫だという思い込み）

【ヒューリスティック的なバイアス】

「いつも正解するとは限らないが、おおむね正解する」という直感的な思考であり、「思い出し易いものは、確率や頻度が高いもの」という経験則的な判断をしている。

事前のできる対応策

- ① マニュアル(手順や分担)づくり
- ② これまでの事例の情報を収集・共有
- ③ 校内研修を有効に活用

リスクマネジメントは、特に平時が重要。
平時に学び、クライシス(危機)を訓練する。これがコツ!!

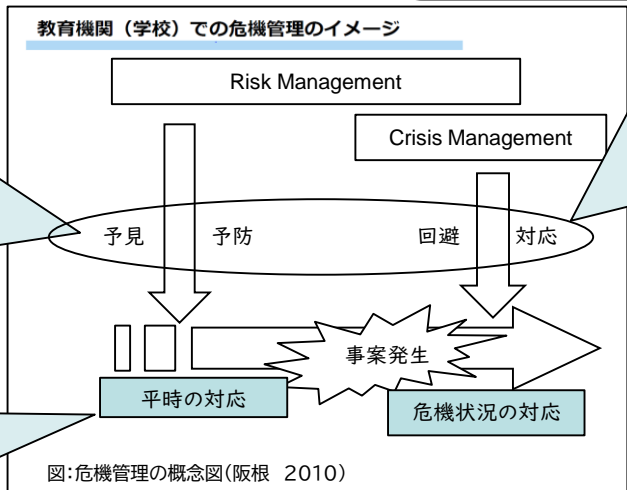


図:危機管理の概念図(阪根 2010)

万が一、問題が発生した場合、問題発生直後の適切な判断に基づくコミュニケーション活動(クライシス・コミュニケーション)の実施が重要になる。

- ① 迅速な意思決定と行動(最初の一手)
- ② 情報をコントロール(何をどこまで)
- ③ 社会的視点を意識(不自然でない対応)

【演習】 突然児童(生徒)が教室内で倒れ、心肺停止の状態になった時、あなたの学校では、誰がどのように対応しますか。時系列で考えましょう。

【受講者の意見】

- ・ 自分は倒れた子どもに対応し、そばにいる子どもに学年・隣の教室・職員室・保健室に声をかけてもらう。
- ・ 緊急事態の際に用いる教職員だけに伝わる言葉を使った放送で、子どもを動揺させずに教職員に知らせる。
- ・ 対象の子どものそばにクラスの子もたちがいれば、別の教室へ移動させるなど心理的配慮をする。 等



救命処置・救急対応に対する教職員及び生徒の意識と技能を高める取組を充実させる

学校全体で協働して命を守る
教職員が知っておきたい“子どもの命”を守るための知識と実践



『救急対応ハンドブック』



校内の教職員が行う対応等をまとめたもの。

阪根健二研究室作成
著者 青木真由子 (2023)

【受講者の感想】

- ・ リスクテイクを行うことは職務上避けて通れないということに、共感できた。多くの学校行事がある中で、整わない環境やリスクをある程度受け入れざるを得ない場合もある。何かあった時に、すぐに対応できるシミュレーションが必要だと感じた。
- ・ リスクには、事前に予測することができるものと、難しいものがあるが、いずれにしても、事前に予測したり効果的な訓練を行ったりすることで回避・低減できることを知った。10年の教員経験におごらず、知見に基づいた判断ができるよう、学びを積み重ねていきたい。また、他の教員と協力し、「なんでも声に出す」ことを大切にしながらリスクを考えて行動するように努めたい。